岐阜大学機関リポジトリ
Gifu University Institutional Repository

Validation of the Japanese Version of the Roland-Morris Disability Questionnaire for Japanese Patients with Lumbar Spinal Diseases

メタデータ	言語: eng 出版者: 公開日: 2008-02-22 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 中村, 正生 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12099/14882

氏　名（本籍）　中　村　正　生（愛知県）
学位の種類　博　士（医学）
学位授与番号　乙第　1390　号
学位授与日付　平成　16　年　7　月　21　日
学位授与の要件　学位規則第4条第2項該当
学位論文題目　Validation of the Japanese Version of the Roland-Morris Disability Questionnaire for Japanese Patients with Lumbar Spinal Diseases
審査委員　（主査）教授　清　水　克　時
（副査）教授　松　岡　敏　男　　教授　清　水　弘　之

論文内容の要旨

腰痛疾患や腰椎関連疾患を持つ患者を評価する際，1986年に日本整形外科学会会告により発表された「腰痛疾患治療成績判定基準」（以下，ＪＯＡスコア）が広く用いられている。ＪＯＡスコアは，自覚症状，他覚所見，及び日常生活動作と，主として大きく3つに区分されており，その特徴の一つは，最初から最後まで診察医が記入してゆく点であり，診察医が患者に対して抱く印象によって影響を受ける余地がある。

腰痛疾患や腰椎関連疾患によってもたらされる，患者のdisabilityを評価するためにも，また，特定の治療方法が患者に与えた影響を評価するためにも，別の異なる評価法が求められる。

Roland-Morris 問診票システム（以下，ＲＭＤＱ）は腰痛疾患や腰椎関連疾患によってもたらされる,患者のdisabilityに対する評価法として，RolandとMorris により，1983年に発表されて以来，欧米をはじめとする海外で広く用いられている。この問診票は，24項目の質問に，患者がyesかnoで回答する簡便な形式をとり，点数が多いほど，disabilityが高いことを表す。

ＲＭＤＱは世界の英語圏以外の言語に逐次翻訳され，それぞれの各国語版におけるその信頼性及び妥当性が評価されており，英語を母国語としない患者にも適応されてきた。

本研究の目的は，ＲＭＤＱの日本語版を作成し，日本人の患者に対するその再現性と妥当性を確認することである。

方法と対象

まず最初に，英語に堪能な日本人のグループが，英語版のＲＭＤＱを日本語に翻訳し，次に，別のグループがそれを再び英語に逆翻訳した。更にもともとの英語版と逆翻訳版とを比較し，ＲＭＤＱの日本語最終版（以下，ＪＲＭＤＱ）を作成した。

第2段階として，ＪＲＭＤＱの再現性を評価した。この段階で，腰痛疾患や腰椎関連疾患を持つ55人（年齢：62.4 ±18.7）を対象とし，一人の診察医が2週の間隔をおいて，二回にわたりＪＲＭＤＱ，ＪＯＡスコア及び腰部と下肢それぞれのＶＡＳを用いた評価を行った。その際，「この二回の問診の間には症状が全く変化していなかった」と答えた患者のみが最終的に評価対象となった。

第3段階として，平成13年11月から平成14年5月までの間，腰痛疾患や腰椎関連疾患を持つ320人（年齢：64.4±18.3）を対象にＪＲＭＤＱの妥当性を評価した。患者の診察は，同じ一人の診察医によって行われた。妥当性の評価は，ＪＲＭＤＱの点数を，ＪＯＡスコアの総合点，ＪＯＡスコア中の日常生活動作項目の小計点，ＶＡＳとそれぞれ別個に比較し行った。

結　果

2週の間隔をおいて記録されたＪＲＭＤＱはそれぞれの間に0.810という高い相関（スピアマンの相関係数）を示し，良好な再現性が認められた。

ＪＲＭＤＱと他の評価基準との関係をみると，ＪＲＭＤＱとＪＯＡスコアとの間では－0.772，ＪＲＭＤＱとＪＯＡスコアの日常生活動作項目との間では－0.790等，高い相関（スピアマンの相関係数）が認められ，ＪＲＭＤＱの妥当性が明らかとなった。

考　察

日本人の識字率は，いまやほぼ100%であり，今回作成したＪＲＭＤＱは，腰痛疾患や腰椎関連疾患に由来するdisabilityを評価したり，各種治療法の成果を評価したりするうえで，有力な手段となりうる。

まとめ

Roland-Morris 問診票を日本語に翻訳し，日本人向けに作成した。

日本語版Roland-Morris 問診票の，実用するに十分な再現性及び妥当性が実証された。

論文審査の結果の要旨

申請者　中村正生は，ロランド・モリス問診票英語原版から日本語版を作成し，これを用いて2001年から2002年にかけての約6ヶ月間，腰椎疾患を持つ320人の日本人患者を対象に，腰痛と下肢痛のもたらすQOL変化を評価した。その結果，日本語版ロランド・モリス問診票が十分な再現性と妥当性を持つことを明らかにし，将来も実用的な発展の余地があることを証明した。本研究の成果は，整形外科の臨床分野ならびに研究分野における腰椎疾患患者のQOL評価に少なからぬ貢献をするものと認める。

[主論文公表誌]

Validation of the Japanese Version of the Roland-Morris Disability Questionnaire for Japanese Patients with Lumbar Spinal Diseases.

Spine 28, 2414-2418 (2003).